

## 2022年度 関西学院大学 海外客員教員(招聘A) 成果報告書

(適宜行追加可)

受入担当 教員	所属・職	関西学院大学国際学部・教授
	氏名	児島 幸治
海外客員 教員	所属・職	Seattle University, School of Business and Economics・Professor
	氏名	COHEN Marc Andrew
招聘目的	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 授業担当及び研究    2. 共同研究    3. 特別枠    (いずれかに○)	
招聘期間	2022年 4月 4日 ~ 2022年 5月 27日	
<b>成果報告</b> 以下の内容を記載して下さい。	<b>1. 授業担当及び研究</b> (1) 授業科目名 Business Ethics (2単位) (2) 授業担当の成果 授業は春学期前半(第1Q)の期間に行われた。14名の履修者があり、ほぼすべての学生が全ての授業に出席した。授業の概要については添付のシラバス通り概ね進捗した(別紙1)シラバス。Learning goalとして示された3つの目的については概ね達成できたと考える。毎回の授業には参考資料として添付したようなレジュメを配布し、これをもとに講義および討議を行った(別紙2)。 (3) 研究の内容 滞在期間中に、国際学部教員対象に、「Teaching Business Ethics, Studying Trust」と題して、ワークショップ式のプレゼンテーションを行った。その際には添付のレジュメを配布し、発表後は活発な議論が展開された(別紙3)。 (4) 研究の成果 従来の研究テーマであるTrust-basedプロジェクトについて、滞在中に実施した、国際学部教員との討議、授業における学生との討議、図書館を利用した文献狩猟による成果として、Trustの実験方法について新しい方法を生み出すことができた。さらに、日本における被験者を対象とした実験についての計画の立案も行うことができた。実験の際には、関西学院大学の倫理規定に従った形で、関西学院大学の教員の力を借りて実施することを計画している。 また、別途「Apologies(謝罪)」の文化相互間の差異についての文献狩猟を行うことができた。謝罪のモラル形態に関する論文を執筆中であるが、そこに文化相互間の差異の要素を加えた論文を続編として執筆予定であり、こちらの執筆に関しても、関西学院大学の教員および大学院生・学生の力を借りて実施することを計画している。	
1. 授業担当及び研究 (1) 授業科目名 (2) 授業担当の成果 (3) 研究の内容 (4) 研究の成果 2. 共同研究 (1) 共同研究の内容 (2) 共同研究の成果 3. 特別枠 (1) 活動内容 (2) 成果の成果		